

授業科目名	地域研究（２）	単位数	2
担当教員名	岩井 雪乃	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
「学位授与の方針」との関係			
本授業では、アフリカの農村に生活する人びとの視点から、自然保護および観光をとらえなおします。それは、政府、国際環境 NGO、グローバル観光企業などがかわる現場であり、異なる立場・文化の人びとの価値観がぶつかる場です。履修生は授業の中で、多様なステイクホルダーが「共生」するために「共感」する力を学びます。また、アフリカの歴史や経済をグローバルな視点でとらえて状況を分析する必要があるため、環境や国際関係に関する「専門知」を「統合知」として使うことを学びます。さらに、人間同士の共生のみならず、アフリカゾウを含めて自然環境といかに共生するか、という正解のない問いを探究することをとおして、「課題探究能力」を身につけ、「共生社会の創造」に向き合い続ける姿勢を養います。 以上の点から、星槎大学の三つの約束および、星槎共生スピリットに関係しています。			
授業の到達目標及びテーマ			
(1) 複雑なアフリカの現状を地域住民の視点から理解し、メディアや報道では見過ごされがちな問題を想像できるようになる。 (2) アフリカの環境問題・社会問題を、多角的・批判的・構造的に分析できるようになる。 (3) アフリカで生じている出来事を、グローバルな潮流に位置づけて理解し、さらには日本と関連づけて考えられるようになる。			
授業の概要			
アフリカは、近年、「最後のフロンティア」と呼ばれ、人口増加と経済成長が目覚ましく、グローバル経済のなかで存在感を増しています。56 の国と地域があり、1500 以上の民族と文化で構成されていて、多様性豊かな大陸です。このようなアフリカの人びとの多様な暮らしの中から、この授業では、「アフリカゾウと地域住民の共生」に焦点をあてて学びます。 アフリカゾウは、重要な観光資源であり、世界中の人びとから「人類の貴重な財産」として保護すべきだと考えられています。しかし、その一方で、ゾウが農作物を荒らし、時には人命を奪う「害獣」となっている地域もアフリカにはあります。授業では、タンザニア連合共和国のセレンゲティ国立公園を事例に取り上げます。この現場では「守るべき環境」は固定されておらず、関係者どうしの相互関係や権力関係のなかで「求められる環境」がせめぎあいます。グローバルからローカルまで多様なステイクホルダー（利害関係者）が存在する現場を理解するにあたって、この授業では、地域住民の視点を大切にし、メディアでは取り上げられない、アフリカの人びとの草の根の声を想像する力を修得します。 スクーリングでは、日本で生じている獣害問題や捕鯨問題と関連づけることで、構造的に問題を理解し、アフリカと日本のつながりを考察します。さらには、「アフリカゾウとの共生のあり方」という「正解のない問い」を履修生同士で議論することをとおして、自分自身の思考を深め形成する力を養います。			
授業計画			
第1回：現代世界におけるアフリカ、アフリカにおけるタンザニア			
第2回：タンザニアの動物保護区と観光			

第3回：タンザニアの農村生活

第4回：生活を脅かすアフリカゾウ獣害問題

第5回：アフリカゾウ密猟と住民を苦しめる取り締まり

第6回：「自然保護」によって土地を奪われる世界の先住民

第7回：タンザニア政府による不十分なゾウ獣害対策

第8回：自然保護という名の土地収奪

第9回：ゾウとの共生をめざす住民の取り組み

第10回：「アフリカゾウと生きるプロジェクト」における試行錯誤：身勝手な国際協力

第11回：アフリカ農民の力強い主体性と生活実践

第12回：メディアによるアフリカ情報を批判的にとらえる

第13回：象牙問題と捕鯨問題のアナロジー

第14回：日本の獣害とアフリカゾウ獣害の共通点

第15回：「動物」とは、「共生」とは：動物倫理学、環境社会学から考える

定期試験

スクーリングでの学修内容

テキストを学修した事を前提にして、スクーリングは開講される。

- ①タンザニアのセレンゲティ国立公園に隣接する農村の生活、アフリカゾウによる獣害の現状、農民によるゾウ対策活動を、写真や映像を用いて解説する。(第1回～第9回の内容を含む)
- ②担当教員が15年にわたって実施してきたゾウ獣害対策支援である「アフリカゾウと生きるプロジェクト」を事例に、国際協力の負の側面や、アフリカ農村社会を理解する方法について、経験をもとに解説する。それをふまえて、国際協力および他者理解のあり方について、履修生同士で議論する。(第10回～第12回の内容を含む)
- ③日本における獣害問題・捕鯨問題について解説し、アフリカゾウ獣害問題・象牙問題と比較しながら考察する。さらに、「野生動物との共生」に関する理論を学び、その上で、「私たちの社会はどのように野生動物と共生できるのか」「アフリカの人びとと私たち日本人はどのようにつながれるのか」を議論する。(第13回～第15回の内容を含む)

教科書

岩井雪乃, 2017, 『ぼくの村がゾウに襲われるわけ。ー野生動物と共存するってどんなこと?』合同出版.

参考文献

- ・岩井雪乃, 2017, 「奪われる住民の観光便益ータンザニア・ワイルドライフ・マネジメントエリアの裏切りー」 アフリカ研究 92: 95-108.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/africa/2017/92/2017_95/_pdf/-char/ja
- ・岩井雪乃, 2015, 「アフリカゾウ生息地で象牙密猟はどう受けとめられているか? ー二重に苦しめられるタンザニアの地域住民」 SYNODOS.
<http://synodos.jp/international/15260>.
- ・特定非営利活動法人アフリック・アフリカ ホームページ
アフリカゾウと生きるプロジェクト <https://afric-africa.org/africa/>
アフリカ便り <https://afric-africa.org/essey/>

学生に対する評価

スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。